

令和5年度

「消費者教育連携・協働推進全国協議会」

消費者教育フェスタ in 近江八幡

実施報告書

令和6年3月

公益財団法人消費者教育支援センター

目次

1. 事業の趣旨・目的	3
2. 実施内容.....	4
3. 広報について.....	7
4. アンケート結果.....	8
(1)事前アンケート.....	8
(2)事後アンケート(会場)	9
(3)事後アンケート(オンライン)	16
5. メディアの取材	23

1. 事業の趣旨・目的

本事業では、消費者教育に携わる地方公共団体の担当者、消費者教育関係者並びにNPOや大学及び企業等の関係者が参画する消費者教育フェスタを開催し、各主体が、基調講演や連携協働の好事例の共有、主体間の交流によって「持続可能な地域社会の実現に向けた消費者教育の連携協働」における課題と解決のためのアイデアを共有することをねらいとして、地域の連携・協働による消費者教育の推進につなげることを目的に行うものである。

■テーマ

令和5年度消費者教育フェスタ 「消費者教育の地域連携！ここまでできる！これからも広げる！ —近江八幡 8年の軌跡と未来—

平成24年に消費者教育推進に関する法律（以下、「消費者教育推進法」という。）が施行され、地方公共団体においても、社会的経済的状況に応じた施策を策定し実施することが責務とされた。その後定められた「消費者教育の推進に関する基本方針」を踏まえて、近江八幡市では平成27年度より市消費生活センターが中心となり地方消費者行政強化交付金を活用して消費者教育を推進してきた。

平成27年度のアンケート調査、平成28年度の消費者教育のあり方検討会（多様な主体におけるワークショップ）の提案を経て、現在は親子を対象とした消費者教育の体験プログラム「SDGs こども特派員」、子供が見守りの主体となる「SDGs こども見守り隊」、そして教育委員会と連携して取り組んでいる「これも消費者教育」プロジェクトと大きく3つの事業を柱に発展的に継続して実施している。

これらは、教育委員会、庁内関係課、地域の担い手など多様な主体との連携を8年間という時間をかけて積み上げた成果である。

多くの地方公共団体では、消費者行政と教育委員会等との連携の難しさが課題だという声を耳にする。近江八幡市も、当初決して例外ではなかった。では、近江八幡市の連携協働の進展には、一体どのようなつながりや仕掛けがあったのだろうか？

そこで、本事業においては、近江八幡市における消費者教育を教育委員会はじめ地域における多様な主体との連携・協働の事例を交流・展開し、全国へのモデルとして発信する。

■開催地概要

開催時期	2024年2月1日
開催地	滋賀県近江八幡市

2. 実施内容

■テーマ及び趣旨

<テーマ>

令和5年度消費者教育フェスタ

消費者教育の地域連携！ここまでできる！これからも広げる！

－近江八幡の8年の軌跡と未来－

<趣旨>

地域における消費者教育の推進において、消費者行政と教育委員会等そのほか多様な主体との連携の難しさが課題となっている。本フェスタでは8年間着実に継続発展させてきた近江八幡市での連携協働事業を事例に、地域における連携協働の可能性を探る。

■実施概要

日時	2024年2月1日 13:00～16:30
開催場所	滋賀県立男女共同参画センター（GNETしが）
開催方法	会場・オンライン
主催	文部科学省
共催	近江八幡市 近江八幡市教育委員会
後援	消費者庁、滋賀県教育委員会、全国高等学校長協会家庭部会、全国公民科・社会科教育研究会、全国小学校家庭科教育研究会、全日本中学校技術・家庭科研究会、全国小学校社会科研究協議会、全国中学校社会科教育研究会、ESD活動支援センター、日本消費者教育学会
参加者	会場 129名 オンライン 133名（オンラインは申込者）

■交流タイム展示協力団体と展示内容

	団体名	展示・ワークショップ内容
1	株式会社ウエノフードテクノ	保存料ってほんとにダメなもの？食品ロス削減や食中毒防止のために一緒に考えましょう！
2	独立行政法人国民生活センター	国民生活センターで実施する消費者教育関連事業等についてご紹介します
3	公益社団法人全国消費生活相談員協会	これって解約できる？知っているようで意外と知らない解約のこと！クイズに挑戦してみませんか？
4	全国大学生生活協同組合連合会	大学生協が進める消費者教育の取り組みと当会が発行する冊子・書籍類を紹介します
5	特定非営利活動法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会	中学校、高等学校の家庭科等の授業で使用可能なテキストと先生向けの指導書をご紹介します！
6	株式会社 LIXIL	安全教育の取組として「家の中で起きやすい事故とその対策」をテーマに実施している授業・講座をご紹介します
7	消費者庁	VRを活用した体験型「消費者力」教材、エシカル消費、食品ロス削減等の啓発資料
8	文部科学省	全国の消費者教育の先駆的实践者を「消費者教育アドバイザー」として、求めに応じて派遣しています
9	公益財団法人消費者教育支援センター	シンポジウム、セミナーのご案内に、消費者教育教材のご紹介！教材を手にするチャンスです！
消費者教育実践モデル構築実施団体		
10	株式会社 omochi	大学生が主体となって、小学生向けの消費者教育教材（テーマ：フェアトレード）の開発に取り組みました
11	奈良国立大学機構奈良女子大学	奈良女子大学生と市民が「学び合う」消費者教育モデル構築の試み等についてご紹介します
近江八幡市の取組団体		
12	消費者教育モデル校 近江八幡市立武佐小学校	「お鍋用のお豆腐、どれにしようかな？」小学校3年生にタイムスリップして消費者教育を体験してください！
13	近江八幡市教育委員会： これも消費者教育プロジェクト委員会	教科書の中の「消費者教育」を見つけ、みんなでイメージマップをつくりましょう！
14	SDGs こども見守り隊	消費者被害を防ぐためにどんなことができるかな？みんなでアイデアを出し合おう！
15	SDGs こども特派員 消費者教育親子体験型プログラム実行委員会	あなたも実行委員！やってみたくなる企画大募集！何する？どこ行く？どう発信する？

■プログラム

- 13:00** 開催地挨拶 近江八幡市長 小西理
近江八幡市教育委員長 大喜多悦子
主催者挨拶 文部科学省総合教育政策局男女共同参画
共生社会学習・安全課課長補佐 濱部威一郎
消費者庁の取組 消費者庁消費者教育推進課
課長補佐 中川壮一
- 13:15** <基調講演>消費者教育と非認知能力
岡山大学教育推進機構准教授 中山芳一
- 14:05** <紹介動画>近江八幡8年の軌跡
- 14:08** <事例報告>近江八幡市で取り組む消費者教育
近江八幡市市民部人権・市民生活課主任主事
消費生活センター 池田あゆみ
- 14:20** <事例報告>いつもやってることやん消費者教育
モデル校の実践
近江八幡市立武佐小学校教務主任・研究主任
消費者教育推進リーダー 犬丸直也
- 14:50** <交流タイム>展示・ミニワークショップ
参加のみなさんと展示団体の方、展示団体同士、
ご交流ください
- 15:35** <パネルディスカッション>
未来から考えるこれからの消費者教育の連携・協働
のかたち
コーディネーター
柿野成美 法政大学大学院准教授
消費者教育支援センター首席主任研究員
パネリスト 池田あゆみ 近江八幡市消費生活センター
森茂次 近江八幡市教育委員会教育部次長
村井孝一郎 近江八幡市立武佐小学校校長
飯盛加奈子 近江園田ふぁーむ
重野弘樹 近江八幡市社会福祉協議会事務局次長
- 16:25** <総評・閉会挨拶>
上村協子 文部科学省消費者教育推進委員会委員長
現代生活学研究所所長
- 16:30** 閉会

3. 広報について

1) チラシによる案内

紙媒体及び PDF にて

主なチラシの配付先)

共催・後援団体

近江八幡市内小学校中学校全家庭配付

近江八幡市内関係者等

消費者教育支援センター機関誌購読者

都道府県市消費生活センター

都道府県市教育委員会

当センター講師派遣講座

PR タイムス など

2) SNS による案内

消費者教育支援センターの Web サイト、Facebook、メルマガ登録者

文部科学省 SNS、後援団体の SNS

■ チラシデザインについて



4. アンケート結果

(1) 事前アンケート

質問 「消費者教育フェスタ」をどこでお知りになりましたか？

回答	会場申込		オンライン	
	回答数	%	回答数	%
文部科学省からの案内	6	13%	8	6%
教育委員会	1	2%	21	16%
配布されているチラシ	16	36%	39	30%
知人からの紹介	0	0%	2	2%
メールマガジン	1	2%	15	11%
後援、共催団体からの案内	11	24%	25	19%
その他	10	22%	22	17%
無回答	0	0%	0	0
合計	45		132	

質問 参加したいと思ったきっかけは何ですか？（複数回答）

回答	会場	オンライン
	回答数	回答数
プログラム全体	37	78
講演内容（基調講演）	11	48
講演内容（事例報告）	5	37
展示・ミニワークショップ	6	3
パネルディスカッション	5	15

(2)事後アンケート(会場)

1. ご所属・職業等

回答	回答数	%
消費者行政担当部門	12	18%
教職員（小中学校・高等学校等）	21	32%
大学生	0	0%
企業関係者	4	6%
そのほか	8	12%
団体職員・団体会員	8	12%
大学教職員	3	5%
教育委員会	9	14%
合計	65	

2. 基調講演について

回答	回答数	%
大変良い	47	72%
良い	17	26%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	1	2%
合計	65	

感想)

- ・テンポがよく、ぐいぐい引き込まれた。
- ・非認知能力は心の育ち、人間をつくる大切なもの。
- ・認知能力と非認知能力の違いがわかった。これからの時代は、AI(認知能力)と人間(非認知能力)がパートナーとなっていく時代。点数で表せる学習も大切だが、非認知能力を育てていくことが必要だと感じた。
- ・子供たちへの意識づけが大切なことがよくわかった。子供たちと向き合う時に、おしつけではなく子供たちが進んで行動できるサポートをしていきたい。
- ・子供への接し方だけでなく、自分自身の生活へもずしんとくる実践していきたい内容だった。
- ・非認知能力は高めすぎてもダメ。メリットとデメリットとの両面があるとのことだが、「高める」ではなく「豊かにする」がフィットするのではと思った。

- ・これからの社会では「生きていく力」を身に付けることが大切。そんな力を評価していく社会、環境に変わっていくことを学べた。
 - ・消費行動が非認知能力と大いに関係があることを改めて確認できた。
 - ・内容は興味深かったが、消費者教育との関わりが具体的にわからなかった。
- 意見)
- ・もう少しだけゆっくりだとよかった。全スライド、資料添付がほしかった。

3. 事例報告1（近江八幡市消費生活センター池田様）について

回答	回答数	%
大変良い	35	54%
良い	28	43%
あまり良くない	1	2%
良くない	0	0%
無回答	1	2%
合計	65	

感想)

- ・ゼロから確実に前進させ、市内の消費者教育について育てあげてきている点、継続、拡大させている点が素晴らしい。
- ・学校、地域、行政がしっかり連携をして取組むことの大切さがよくわかった。
- ・学校で地域で企業で、それぞれの消費者教育の在り方がよく理解できた。近江八幡の強味にしてこれからの人生を生き抜く力にしていきたい。
- ・子供が楽しそう。今時のコミュニティーにおけるつながりづくりであるSDGsこども見守り隊は良い取組だと思った。
- ・SDGsこども見守り隊は、子供が地域の人に目を向けるきっかけになる。
- ・「三方よし」が根底にあると感じた。
- ・市全体で消費者教育に取り組んでいる様子、大変参考になった。本市でもできることから取り組んでいきたい。
- ・近江八幡市消費生活センターの取組は、他の地方都市への刺激になるが、とりかかりが難しい。

意見)

- ・何をされているのか一行でも書いてあるとよりわかりやすい。
- ・職員研修の具体的な内容が知りたい。
- ・さらに福祉(社協)とのつながりで、フードバンク(生活困窮者)などと食品ロス問題(消費者市民教育)とつなげてはどうか。

4. 事例報告2（武佐小学校教務主任犬丸直也教諭）について

回答	回答数	%
大変良い	37	57%
良い	27	42%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	1	2%
合計	65	

感想)

- ・学校が主体で消費者教育を実践されていることに驚いた。
- ・「初め何をしていたかわからん」という中で、2年間頑張ったのは素晴らしい。
- ・地域の学びの中に消費者教育があると改めて学んだ。
- ・ただ単に行うだけでなく、何のために今これをしているのか、「つながり」を意識するだけで影響が全然ちがうと感じた。
- ・消費者教育の充実はふるさと教育の充実。「いつもやっていることやん 消費者教育」のフレーズが良い。
- ・普段の授業の中にたくさん消費者教育につながるがあったので、授業の中で消費者教育の視点での声かけをしていきたい。
- ・消費者教育につながる具体的体験については分かったが、自立した市民の育成との関りが弱いと感じた。

ーモデル校の取り組み方法についてー

- ・1～6年生に対し、それぞれ狙いや思いをもって、6年かけて育くませている PGM が素晴らしい。また、先生方がチームとして活動している点もすごい。
- ・校内の体制から変えられ、教員も含めて学校全体で取組まれ素晴らしい。これが中学校へどうつながっていくのか、中学校教員としてとても気になった。
- ・

意見)

- ・普通の学校で、『先生が「いつもやっていること」の中で、その中に消費者教育があることに気づく研修』をしてほしい。
- ・先生方が全体研修を通じて共通理解し、できることから実践している姿に感心した。先進事例として全国に広げていただきたい。
- ・写真等を多用され見てわかりやすかった。プレゼンの中で具体的な固有名詞があり、説明が必要かもしれない。
- ・スライドの字が大きいのは良いが、紙はムダなので印刷方法を工夫されてはどうか。

5. 交流タイムについて

回答	回答数	%
大変良い	30	46%
良い	29	45%
あまり良くない	2	3%
良くない	0	0%
無回答	4	6%
合計	65	

感想)

ー武佐小学校体験授業ー

- ・武佐小学校の授業体験が特に良かった。1回10分間と限られた時間のなか、内容もポイントをしぼって実践していただき、具体的にイメージできた。また、3回予定である旨の表示もあったので、実施時間に合わせほかのブースもまわりやすかった。
- ・出前講座での参考としたい。

ー交流タイム全体ー

- ・企業や団体の方の取組みを知る機会はなかなかないので、貴重な時間だった。様々な企業や団体が消費者教育に携わっていることを知り活用していけたらと思う。
- ・自分の意見を伝えることができて良かった。
- ・体験を通して取組を知るコーナーはわかりやすく参考になった。
- ・ワークショップ型がよい。
- ・多様な型式のブースがあり、特色を生かした取組みがとてもよくわかった。
- ・自由な雰囲気交流できたのがよかった。
- ・この場から次の活動へと広がればと感じる場となった。
- ・魅力的な教材がたくさんあったが、ほとんど中、高生向きであった。
- ・ウエノフードテクノさんの説明がわかりやすかった。
- ・VRは是非教育現場に取り入れた方がよいと思った。
- ・会場内で行えたことで、講演、報告等と一体的な感じで流れが途切れず良かった。

意見)

- ・もう少し短い時間でもよかった。パネルディスカッションをもっと聞きたかった。

6. パネルディスカッションについて

回答	回答数	%
大変良い	32	49%
良い	25	38%
あまり良くない	0	0%

良くない	0	0%
無回答	8	12%
合計	65	

感想)

ー連携・協働についてー

- ・行政と学校、地域が全てそれぞれの目的に応じて、協働されている姿がとても参考になった。
- ・地域は一つ。
- ・それぞれの立場を理解しながら無理せず、連携することが大切ということがわかった。
- ・コミュニケーションや想いを伝え合うことが大切だと気づいた。
- ・自分の市で考えたとき、まずは多くの方とかかわり、その中で連・携協働できることを考えていきたいと思う。

ーパネルディスカッション全般ー

- ・皆様のホンネが良かった。さらに、コーディネーターのまとめがとても良かった。
- ・子供が主役というワードが出てきたり、子供に焦点を当てた話があった。これからの将来を担う子供たちには自ら考え自ら行動するという力をつけたい。
- ・子供に学びを実感させるためには、実体験が必要。地域社会でそうした地域ぐるみの教育を展開できたらよい。すべては未来への投資。
- ・「楽しい」を伝えるとの発言が参考になった。周知のツールはSNSなど様々あるが、非認知能力である「参加したいと思う意欲」を高めるためのコンテンツ(良い取組)を広めていくことから始めることは有効であると感じた。
- ・消費者教育を地域、福祉、教育の視点をもって取り組むこと。このことをさらに100歳時代を生きる生活者に投げかけていきたい。
- ・真の市民の視点がぬけているように感じた。
- ・交流タイム前はあれもこれも消費者教育という趣旨。交流タイム後は正しい消費者教育というワードが出て少しギャップを感じた。

意見)

- ・時間がもう少し短くても良いと思った。

7. プログラム全体について

回答	回答数	%
大変良い	31	48%
良い	26	40%
あまり良くない	2	3%
良くない	0	0%

無回答	6	9%
合計	65	

感想)

- ・講演、事例、報告、交流、パネルディスカッションとバラエティーに富んだ構成で、学びながら飽きることなく楽しかった。
- ・前半はスピード感があり、交流タイムではちょっとブレイク、後半のパネルディスカッションはお話しくださる方の雰囲気(優しい)を感じられ、緩急がありボリュームもあった。
- ・展示のみでなくワークショップをもうけたこと。基調講演、近江八幡8年の実践、実績がもとになっていること。
- ・交流タイムがありがたかった。
- ・様々な目線で消費者教育について考えることができた。
- ・実践されたものを見たり、体験したり、自身の学びにつながった。
- ・会場参加とオンライン参加の双方に配慮されたプログラムだった。
- ・学校教育に偏っている。
- ・内容が多かったように思う。

意見)

- ・コンパクト、中山先生が最後まで残られていたら、もっと良かった。

8. 今日のプログラムを通じて新たな気づきはありましたか？

回答	回答数	%
はい	58	89%
いいえ	0	0%
どちらとも言えない	2	3%
無回答	5	8%
合計	65	

感想)

- ・「非認知能力」って何だろう、と思い参加した。生きていくために、子供たちだけでなく大人の私たちにも必要な力だと思った。
- ・中山先生の資料の作り方、話される内容はとても勉強になった。
- ・非認知能力を消費者教育と結びつけて考えるという視点が新鮮。
- ・消費者教育ときくと、すごく難しいと感じたが、普段の生活に基づくものだと気づくことができた。
- ・あらためて通常授業に消費者教育が含まれること。消費者教育は予測不可能な未来を生きる若者にとって必要な力の育成であること。

- ・今あるカリキュラムの中でどの部分が消費者教育プログラムに位置づけられるのか、その立場で見直すことが必要。
- ・視野が広がった。
- ・子供の取組は、子供だけのものではなく、大人にも刺激に。自分にできることを一人ひとりが考えるきっかけづくりになる。
- ・他府県からの参加なので、自分の自治体、地域だったら何ができるか、と考える機会となった。
- ・展示ミニワークショップが非常に良かった。
- ・プログラムのコンセプトが非常に明確であったことから、基調講演から最後のパネルディスカッションまで一貫しており、内容が入りやすかった。

9. ご自身の今後の取組や活動に役立ちますか？

回答	回答数	%
大いに役立つ	26	40%
役立つ	33	51%
あまり役立たない	0	0%
役立たない	0	0%
無回答	6	9%
合計	65	

感想)

- ・色々な視点が得られた。消費者教育にととどまらない広く教育を考えることにつながった。
- ・未来を担う子供たちが、自分たち自身で社会をつくり上げていけるように、自分の立場でかかわっていけるといいなと思った。
- ・多くの種類で活躍されている方との交流は貴重だった。
- ・デジタルの事を今まで考えていなかったが、今後はデジタルシティズンシップをしっかりと考えていきたい。
- ・プレゼンの方法やパネラーの発言など学びがあった。

意見)

- ・行政と教育現場の連携方法を教えてくれるとなお実践に移せると思った。

10. その他ご意見

- ・何でも消費者教育に結びつけることができるという考え方は、SDGs時代の消費者教育を一層普及していく上で重要だが、消費者教育としてのアイデンティティが見えにくくなっていると感じた。

- ・子供たちの活力になるような、そんな体験を促せる大人でありたいと。
- ・普段聞き慣れない「消費者教育」だが、生きていくことに密着しており、「意識する」ことで行動が変わりそうだ。変えていきたいと感じた。
- ・自立した市民の観点からは、もっと厳しく環境や人権の観点が必要だと感じた。
- ・特に最後のパネルディスカッションが良かった。様々な立場の人達がつながって「消費者」の視点から様々な課題解決に向けて、様々な世代の人達とともに考え、取り組んでいくことが、大きな一歩につながるのではないか。つなぐことで少しずつ先が見える、そんな取組ができればよいと思った。
- ・こうした研究がこれからの日本を社会を100歳時代を生きることにつながる。
- ・文科事業なので先生が多かったが、もっと幅広く参加者が集まると更により。子供参加、夏休みにするのもよい。

(3)事後アンケート(オンライン)

1. ご所属・職業等

回答	回答数	%
消費者行政担当部門	23	48%
教職員（小中学校・高等学校等）	9	19%
大学生	0	0%
企業関係者	0	0%
団体職員・団体会員	4	8%
大学教職員	0	0%
教育委員会	1	2%
その他	11	23%
合計	48	100%

2. 基調講演について

回答	回答数	%
大変良い	31	65%
良い	17	35%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・ 学術上の知識に加えて、テレビドラマのセリフなどから非認知能力を説明いただくなどとても分かりやすかった。
- ・ 知識の分類整理が進み役立った。
- ・ 導入から引き込まれ、非認知能力の定義から現在の学習指導要領への橋渡しまで大変わかりやすい内容だった。ふわっとした言葉によりやく輪郭が見えたように思う。それを今度どう実践していくか、考えて実践していきたい。
- ・ 親として子供に教えてあげられることは、非認知能力の分野なんだと思う。知識だけでなく、生活の中で自然と習慣になっていることが、今後子供たちが生きる上で役に立つのだと思った。
- ・ 消費者教育の重要性だけでなく、そもそも非認知能力というものについて改めて考える機会となり、良かった。
- ・ 当県の教育現場にも伝わって欲しい。
- ・ 消費者教育に関わる人が非認知能力を知ること、それぞれの事業の役割がより明確になり、より立体的に組み立てたり連携したりできるように思った。

意見)

- ・ 「消費者教育は生きる力！ 消費者力と非認知能力の関係」をもっと膨らませてほしい。
- ・ スライドでピラミッドを示されていた部分を手元に残せたらと思った。

3. 事例報告 1 (近江八幡市消費生活センター池田様) について

回答	回答数	%
大変良い	23	48%
良い	24	50%
あまり良くない	1	2%
良くない	0	0%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・ 行政職員は何年間かで変わっていく中で、スムーズな引継ぎができていて素晴らしい。
- ・ 行政職員の方がここまで消費者教育に積極的に関わっておられることに驚いた。人事異動があっても取り組みが続くことを願っている。
- ・ 率先して地域連携されている事が伝わってきた。
- ・ 消費者行政の分野は幅広い、人と関わることで新たな気づきをたくさんいただく。どう施策に取り込めるかは、住民の協力や賛同を得られるかが重要のように感じた。

- ・教育委員会との連携についてぜひ参考にさせていただきたい。
- ・子供達が、地域の高齢者などを見守る活動は、子供達自身の学びにもつながるとも良い取組だと思った。授業に取り入れてみたい。

意見)

- ・担当者の池田さん以外の推進体制について知りたい。
- ・他の市町村にも広がっていくと良い。

4. 事例報告2（武佐小学校教務主任犬丸直也教諭）について

回答	回答数	%
大変良い	28	58%
良い	20	42%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・消費者教育推進モデル校に決まり、とまどいの大きい中、全校で取り組まれたことに、敬意を表す。これまでやっていたことに消費者教育の視点を加えること、児童が実感できることなど、とても大切なことを実践から教えていただいた。
- ・多くのやるべきカリキュラムの中、消費者教育の研究を実践されたことに感心した。
- ・消費生活相談員が思う消費者教育より、広い意味で捉えていた。こんなテーマでも出来るんだと参考になった。
- ・子供たちが活動で得られたことが保護者にも伝わると良い。
- ・生産者を訪問したり、子供たちが幅広い視点を得られる取り組みが素晴らしい。
- ・小学校の段階（発達段階）から、SDGs やエシカル消費の考え方に触れ実践していくことは、これからの未来に大変重要なことだと感じている。

ーモデル校の取り組み方法についてー

- ・最初に研修会をされたのは良いことだと思った。
- ・仕組みをつくったのが良かった。それぞれが役割を持ちながら、情報は共有していく。リーダーの役割をうまく果たしながら進めて行かれたのだろう。素晴らしい。
- ・教師の意識づけや研究体制までお話しいただいたのがとても良かった。ベテランと若手をつなぐことで、人とのつながりができるだけでなく、「誰かできる人がするの」ではなく、「いつか自分がする」、という自分事として研究が続く体制がとてもよい。

意見)

- ・モデル校として受けることになった経緯や先生方の取り組みに対する反応が知りたい。

- ・今回（数年間）の取組で、体験したり、学習した子供たちの消費者としての意識が追跡できるなら、それが知りたい。その時は本当にいい経験ができていると思うが、持続的とか、さらに深めたいなどの意識になっているのかなど意識の変化が気になった。
- ・市内の他の学校も真似して欲しいし、武佐小学校にはどんどん真似してもらえるようなおもしろいことを実践して行ってほしい。
- ・本市の教育委員会にも聞いてもらいたい。
- ・全国に広めてほしい。

5. パネルディスカッションについて

回答	回答数	%
大変良い	19	40%
良い	29	60%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・それぞれの方が正直に難しさを語っていることに共感を持った。
- ・この地域では、それぞれの専門領域から子供たちに関わることで質の高い教育がされていることがわかった。連携するのは本当に骨の折れることだが、その子供たちが何十年後に地域の支え手となってくれるのだと思う。長い目で見てもとてもいい取り組みだと思った。
- ・いずれ社会に出て行く子供達の学びのために、これからますます地域の企業との連携も必要になってくると感じた。
- ・教育委員会との連携は思った以上にハードルが高い。近江八幡市のように、まずは町全体のいろいろな人が集まる場をつくり、一緒に考えて行く組織が必要。その中で課題を解決しながら息の長い活動を続けていくことが大切だ。
- ・教育委員会からの意見で「消費者教育は後回しにしていた」という発言があって、はっきり言ってもらってよかった。今後の対応を考えやすい。
- ・研究指定校でなければすべての学校で実践していくには、もう少し、規模を縮小したカリキュラムも考えていかないと広がらないのではないかと考えた。
- ・子供と保護者で実際に生産者の皆さんとかかわり、一緒に取り組んでいく事業は面白い。実際お店で売られているものと生産されているものを見比べ、感じることは大切な教育だと思った。

- ・よい活動を知ってもらい関心をもってもらうことから始まる。「楽しい姿を見せていく」こと！それって重要。
- ・市民、学校職員への周知はやはり課題だと感じる。
- ・現場の一担当員としては残念ながら得るものは殆どなかった。立案者たちの御苦勞が垣間見えたことはよかったのかもしれない。
- ・コーディネーターの”前任者からスムーズに引き継げた”という発言が、これまで考えてこなかったけど市の事業では珍しいことで幸運なことなのだろう。

意見)

- ・消費者教育の重要性を多くの方に理解していただきたい。

6. プログラム全体について

回答	回答数	%
大変良い	24	50%
良い	24	50%
あまり良くない	0	0%
良くない	0	0%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・消費者教育への考え方や各立場からの取組みや考えを聴くことができたので良かった。
- ・地域連携がスムーズに行われたのは近江という地域性（商道德としての三方よし）も影響するかと思う。
- ・政策立案推進担当者や教育関係者には有意義なプログラムだったのではないかと推察するので、評価は「良い」とさせてもらった。しかし、相談現場の一担当者としては仕事に役立つスキル知識等得るものが殆どなく、時間対効果が悪すぎたなと感じている。
- ・基調講演、事例報告、パネルディスカッションどれも興味深い内容だった。
- ・モデル校に選ばれると、このように関係者全員で取り組んでもらえるだろうが、そうでなければ難しいのではないか。ただ、取り組みの結果は素晴らしいと思う。
- ・どの地域でもできることだとは思えないが、それぞれ自分の自治体で少しでも消費者教育が推進していこうという気持ちになった。
- ・全体としてとても丁寧に運営されていて、内容も濃密なものでした。付け焼刃ではない本当の教育のおすそ分けをしていただいたと思った。
- ・オンラインの休憩中に流れた交流タイムのみなさんの笑顔がとても素敵だった。研究は内容も大切だが、人がつながって笑顔で発表しているこの体制こそが大切なのだった。現地には行けなかったが、大満足のオンライン参加だった。

- ・適切な時間配分でカリキュラムが組まれていて、オンライン参加でもフラストレーションなく参加できた。
- ・お聞きした内容はどれもとてもよかったが、オンライン参加だったので会場の交流タイムに参加できなかったのは残念。

意見)

- ・ライブ配信では、基調講演とディスカッションが中心だったが、展示などの具体的な内容をもっと詳しく知りたかった。

7. 今日のプログラムを通じて新たな気づきはありましたか？

回答	回答数	%
はい	42	88%
いいえ	2	4%
どちらとも言えない	4	8%
無回答	0	0%
合計	48	100%

感想)

- ・認知・非認知について理解が深まったため。
- ・消費者教育は非認知能力を育てること。消費者教育をすすめることは「いつもやっていること（やってきたこと）」の視点を変えるだけでできるので、消費者教育の視点を伝えていくことや提案することができるのではないかと思った。
- ・何のために消費者教育を行うのか、という全体の意識づけにより、学びが広がりつながるのだと実感できた。
- ・自分が思うより、学校での消費者教育の範囲が広がった。もっと子供の生きて行く力を伸ばす方向で楽しい講座内容を考えていく為に、とても参考になった。
- ・啓発の要望が多い情報モラル関係は、危機感を煽る啓発になりがちだが、楽しく取り組める啓発活動が大事なことを強く感じた。
- ・今は、自分が出前講座を行い、少しでもたくさんの児童、生徒、学生に伝えようとしているが、児童の体験活動や地元の事業者と直接関わる主体的な活動が大切だと感じた。
- ・SDGs こども見守り隊の活動、関係するみなさんが地域のために一生懸命されている点が素晴らしい。是非、私のいる地域でも実現したい。
- ・地域は1つ。
- ・地域連携をすすめるに当たって、さまざまな可能性、ヒントを得た。
- ・縦割りになっている共通テーマを掘り下げるとき、どちらが主体となるかでもめることもある。その場合は既に取り組んでいる機関で消費者教育の分野を取り入れた方がスムーズに連携できると思う。双方のメリット・デメリットを明確にすることも大事だ。

- ・消費者行政と教育委員会との連携の重要性を感じた。また、事業者など地域を巻き込んで取り組んでいくことで地域の魅力を高めることにも、ふるさと教育などほかの教育にもつながることを学んだ。
- ・行政側からは教育委員会はハードルが高いと感じがちだが、お互いにハードルを高くしているためであり、お互いにじっくりと向き合い話し合うことがいずれ協働に繋がるのだと感じた。
- ・プログラムを通して、自分の授業計画でも視野を少し広げて楽しさを取り入れてみようと思え、負担感が軽減した。
- ・どれも、現在の実践に基づいたリアルな内容で、「今」を感じられた、これからの自分の実践に気づきを与えてくれた。
- ・SDGs、エシカルの分野で参考となるものがあり新たな気づきをいただいた。

8. ご自身の今後の取組や活動に役立ちますか？

回答	回答数	%
大いに役立つ	19	40%
役立つ	27	56%
あまり役立たない	1	2%
役立たない	0	0%
無回答	1	2%
合計	48	100%

理由)

- ・はちサポさんの取組、もっと伺いたい。
- ・非認知能力ということ。
- ・子供による地域の見守り活動など参考になった。
- ・今後の指針になる。
- ・学校関係者・教育委員会が「消費者教育の意義」についてどれだけ学校現場にアプローチしていけるかが鍵だ。まずは、教職員への啓発を考えていきたい。何を取り上げ、何を減らして、無理なく教育カリキュラムに「消費者教育」を位置づけることができるのが、今後の課題だと思う。
- ・消費者教育コーディネーターの立場では、できることに限りがあるので、体験学習や事業者訪問までは現時点では難しいが、出前講座の中でも児童が考える場面を作ったり、ゲームで疑似体験したりすることもよいのではないかと思う。
- ・YouTube は画質が粗くてプレゼン資料が非常に見づらかったのが残念だった。
- ・自分の仕事内容と全てがリンクできるものではないが、大いに参考になった。

5. メディアの取材

(1) 新聞

2024年(令和6年)2月3日(土曜日)

湖南で来月20日初の公演

関西フィル弦楽ソリスト

関西フィルハーモニー管弦楽団の弦楽トップ奏者を中心に編成した「関西フィル弦楽ソリスト」の初めてのコンサートが3月20日、湖南市甲西文化ホールで開かれる。新ゆかりの奏者4人を含む12人のメンバーが、名曲を奏でる。(関係者提供)



ソリストは、関西フィルハーモニー管弦楽団の弦楽トップ奏者を中心に編成した「関西フィル弦楽ソリスト」の初めてのコンサートが3月20日、湖南市甲西文化ホールで開かれる。新ゆかりの奏者4人を含む12人のメンバーが、名曲を奏でる。

地域連携の消費者教育事例を紹介

近江八幡でフェスタ、個人交流

消費者教育センターが、近江八幡市立中学校と連携し、地域連携の消費者教育事例を紹介するフェスタを開催した。近江八幡市立中学校の生徒らと消費者教育センターの職員らが交流した。

県ゆかりの奏者の名曲奏でる

「関西フィル弦楽ソリスト」のメンバーが、名曲を奏でる。メンバーは、新ゆかりの奏者4人を含む12人のメンバーで構成されている。

キャリアアップ編成を検討

高専情報会議で24年度の方針を確認。キャリアアップの編成を検討する。

特支校新設初の意見交換

草津高等学校の保護者と県教委が意見交換を行った。

電子版アプリで紙面読めます

中日新聞プラス会員は、電子版で名古園向け朝刊と中部9県全域の地方版紙面をスマホ、タブレットのアプリでパソコンでご覧いただけます。

地域	天気	気温
大津	晴	12/15
京都	晴	13/16
奈良	晴	14/17
和歌山	晴	15/18
三重	晴	16/19
滋賀	晴	17/20
岐阜	晴	18/21
愛知	晴	19/22
静岡	晴	20/23
長野	晴	21/24
山梨	晴	22/25
長野	晴	23/26
新潟	晴	24/27
富山	晴	25/28
石川	晴	26/29
福井	晴	27/30
岐阜	晴	28/31
愛知	晴	29/32
三重	晴	30/33
滋賀	晴	31/34
京都	晴	32/35
奈良	晴	33/36
和歌山	晴	34/37
三重	晴	35/38
滋賀	晴	36/39
京都	晴	37/40
奈良	晴	38/41
和歌山	晴	39/42
三重	晴	40/43
滋賀	晴	41/44
京都	晴	42/45
奈良	晴	43/46
和歌山	晴	44/47
三重	晴	45/48
滋賀	晴	46/49
京都	晴	47/50
奈良	晴	48/51
和歌山	晴	49/52
三重	晴	50/53
滋賀	晴	51/54
京都	晴	52/55
奈良	晴	53/56
和歌山	晴	54/57
三重	晴	55/58
滋賀	晴	56/59
京都	晴	57/60
奈良	晴	58/61
和歌山	晴	59/62
三重	晴	60/63
滋賀	晴	61/64
京都	晴	62/65
奈良	晴	63/66
和歌山	晴	64/67
三重	晴	65/68
滋賀	晴	66/69
京都	晴	67/70
奈良	晴	68/71
和歌山	晴	69/72
三重	晴	70/73
滋賀	晴	71/74
京都	晴	72/75
奈良	晴	73/76
和歌山	晴	74/77
三重	晴	75/78
滋賀	晴	76/79
京都	晴	77/80
奈良	晴	78/81
和歌山	晴	79/82
三重	晴	80/83
滋賀	晴	81/84
京都	晴	82/85
奈良	晴	83/86
和歌山	晴	84/87
三重	晴	85/88
滋賀	晴	86/89
京都	晴	87/90
奈良	晴	88/91
和歌山	晴	89/92
三重	晴	90/93
滋賀	晴	91/94
京都	晴	92/95
奈良	晴	93/96
和歌山	晴	94/97
三重	晴	95/98
滋賀	晴	96/99
京都	晴	97/100

(2) ZTV (ケーブルテレビ)

今日のニュースで取り上げ取材